

高齢透析患者の QOL に関する透析時間の検討 —KDQOL-SF™ を用いた評価—

長崎腎病院

○岩本まゆみ 林田征俊 山中真樹子 丸山祐子 原田孝司 船越哲

【目的】

高齢透析患者の透析時間における QOL を調査する。

【対象と方法】

2013 年 9 月 1 日に在籍している 65 歳以上の当院血液透析患者 222 名のうち、有効回答を得られた 89 名を対象とし、4 時間未満群（以後短時間群）62 名と 4 時間以上群（以後長時間群）27 名に分け、検査データ及び KDQOL-SF™ を比較した。

【結果】

1. KDQOL は腎疾患特異的尺度のソーシャルサポート、包括的尺度の日常役割機能の身体・精神において短時間群が有意に高かった。
2. 包括的 QOL 尺度のサマリースコアにおける身体的健康度では、短時間群が高い傾向を示した。
3. TacBUN は有意に長時間群が低かったが、短時間群でも平均値は 40.2mg/dl と基準値以下であった。
4. K 除去率、GNRI では差がみられなかった。

【考察】

医学的には推奨できない短時間透析であっても、高齢透析患者にとって残された予後を快適に過ごすためには一つの選択枝と思われる。生命予後と QOL のどちらを優先するかは医療倫理に基づく慎重な検討も求められる。